

明治農具絵図・関連文書群の全国調査

「明治農具絵図」は「明治の農具資料館」と 位置づけられる資料群

研究代表者 桂 眞幸

「明治農具絵図」とは、平成の現代から言えば百数十年以前に遡る明治時代に全国各地で各々の地域で日常用いられていた農具類を図示した資料で、その図を通して当時の地域の人々の生業・生活の一端がうかがえる何よりの資料に他ならず、2012年時点では桂により92点が報告されている。

そして、今回「明治農具絵図研究会」として、神奈川大学日本常民文化研究所の奨励研究を受け、2013・2014年度の2年間に涉り、明治農具絵図の更なる資料の調査集積、農具絵図作成に関する関連文書の調査に取り組み全国25府県の公文書館・図書館・博物館等の118機関での調査により、新たな農具絵図資料として37点、関連文書として69点の資料を掘り起こすことができた。

また、これまで模写・複写資料しか伝えられていなかった事例の中で5件について各々の原本の所在を確認することができた。その1例を紹介しておこう。

昭和9年（1934）の正月、奥三河の花祭行事探訪のため愛知県北設楽郡を訪れた渋沢敬三は、地元個人が所蔵する農具絵図を披露され、「これは貴重な資料であるから、アチックでぜひ刊行したい」と大きな関心を寄せている。

同農具絵図は、明治13年（1880）に北設楽郡役所の主導により作成されたものであったが、大正15年（1926）郡役所制の廃止と共に資料は散逸し、その1部を郡内の個人が所蔵し渋沢に披露したものであるが、同農具絵図についても所蔵者の死去後は所在不明となり農具絵図の作成地である北設楽郡内では原本は確認できない状況に至っている。

ところが、今回の調査により明治13年（1880）に北設楽郡で作成された郡内四方面の地域ごとの農具絵図とそれらを取りまとめた農具絵図の5点6冊の原本を思いがけない地域である北海道の北海道大学附属図書館蔵本の中で発見することができた（図1）。

ともあれ、今回の調査取り組みにより新しく発見された37点を加えた129点の「明治農具絵図」資料には6,600余点の農具類や作業情景図が紹介されており、それらは明治時代に全国各地で日常用いられていた農具類について学ぶ上で何よりの資料である。これらの「明治農具絵図」は「明治の農具資料館」と位置づけられる貴重な資料群であり、今後、図の伝える様々な情報は各視点からの基礎資料として活用すべき資料に他ならない。

